

包装資材研究例会

～海洋プラスチック問題に対して“包装”にできること～

日時 2020年9月24日(木) 13:25～16:45
会場 「Zoomウェビナー」を利用したオンラインセミナー形式
※お申込みの方に、事前登録等の手続きをメールでご案内いたします。
参加費 【会員】 無料 / 【一般(会員外)】 5,500円(消費税10%込)

プログラム

【コーディネーター】

名港海運株式会社 営業第二部 副部長(包装管理士) 鳥居 晃好 氏
リスパック株式会社 技術開発本部素材開発部素材第1チーフリダー(包装管理士) 水谷 善教 氏

13:30～14:15

「海洋プラスチック問題と資源循環戦略ー包装材料への期待」

日本プラスチック工業連盟 元専務理事 岸村 小太郎 氏

プラスチックは私たちの暮らしに定着し、様々な生活分野や産業分野に貢献している。しかし、使用後の不適切な廃棄や、不十分な廃棄物管理等により、使用済のプラスチックが陸域から河川を通じて海洋に流出し、地球規模の問題になっている。我が国においても、海洋プラスチック問題への関心の高まりや、国際的動向を背景に、プラスチック資源循環戦略を2019年5月に公表している。

本講演では、日本プラスチック工業連盟における海洋プラスチック問題への取組みを紹介するとともに、国のプラスチック資源循環戦略について、その策定に参加した立場から解説する。また、連盟が独自に策定した資源循環戦略を紹介しながら、包装材料への期待も述べてみたい。

14:15～14:30 質疑応答・休憩

14:30～15:15

「紙でできることは紙で。」～紙のもたらす新たな機能と価値～

日本製紙株式会社 新素材営業本部パッケージング・コミュニケーションセンター 技術調査役 野田 貴治 氏

包装業界に限らずすべての産業界において、「サステナビリティ」「気候変動」「廃棄物問題」は、地球環境における普遍的な課題として挙げられる。日本製紙グループでは、「紙でできることは紙で。」という考えのもと、パッケージにおける紙の可能性を拡大し、これらの課題解決に貢献できるような技術・製品開発を行ってきた。本講演では、紙素材の特徴を説明した後に、日本製紙グループのパッケージ戦略と開発事例の紹介を通して、課題解決に対する紙の貢献可能性について述べる。

15:15～15:30 質疑応答・休憩

15:30～16:30

「植物由来の透明な紙『セルロースフィルム』の環境適性と包装材への応用」

フタムラ化学株式会社 中部統括開発グループリーダー(包装管理士) 花市 岳 氏

セルロースを使った透明フィルムは木材パルプから作られた、生分解性を有するバイオマス素材です。歴史は意外と古く、プラスチックが開発される前から存在していました。我々はこのフィルムをコンポスト適性や海洋分解性などの環境ニーズに合わせながら着々と進歩させ、他のバイオマス素材との融合など環境包装への応用を検討しています。今回はこのフィルムの特性に加え、プラスチックを含めた昨今の環境問題の本質と今後包装材が取るべき方向性を示しながら、この古くて新しい技術を解説いたします。

【注意事項とお願い】

「Zoom ウェビナー」を利用したオンライン形式で開催いたします。下記の内容について、事前にご確認ください。

- ①ご利用の端末への Zoom アプリケーションのインストールおよびインターネット接続が必要となります。
- ②接続回線の状況等により視聴し難い場合があります。通信費・接続利用料金等は、参加者の自己負担となります。
- ③参加申込をいただいた方には、Eメールで参加手順等をご案内いたしますので、事前にご確認ください。
- ④本セミナーの内容について、録画・録音・キャプチャー取得等によるデータ保存行為を固く禁止します。また、講演資料は参加者のみの利用に限定しますので、無断で複写・配付・公開する等の行為を行わないでください。